

# 活動名：自然の恵みを、働く喜びに～地域と育む、農福連携～

予算:275千円

【内訳】  
委託費 275千円

## 【活動目的・背景】

有機農業を拡大していくためには、多様な主体による有機農業へ参画が必要です。また農福連携による農業分野での障がい者等の就労やいきがづくりの場の創出なども近年重要になっています。

そこで飛騨市では、有機農業を軸とした食料の生産・加工・販売の過程での、障がい者とのつながりの場の創出と参画を図り、高付加価値の商品を開発することで、持続可能な農業振興と障がい者の社会参加や雇用創出につなげるため、今年度、事業を開始しました。



6月 苗の植付け・10月収穫



飛騨溶岩石を使った焼き芋

## 【活動内容】

障がい者自立支援施設「いこいの家」としては初めて、有機農法によるサツマイモの栽培とその加工品の販売に取り組みました。栽培では、シルクスweet、紅はるか、安納芋の3種類を栽培しました。収穫したサツマイモは、熟成させた後、飛騨の溶岩石を使った焼き芋として試験販売も行いました。焼き加減など加工の調整が難しいものの、試作を重ねイベントでの試験販売も行いました。

■実施者 社会福祉法人 吉城福祉会

■指導 [栽培]飛騨市 [販売]フードコーディネーター 中川雄介

■実施内容

R6年6月～9月 さつまいもの栽培

10月下旬 収穫・熟成

11月中旬 焼き芋のテスト販売(福祉のつどい)

1月 中旬 焼き芋のテスト販売(三寺まいり)

## 【成果】

事業所の通所者による農作業を実施、管理を続け秋には収穫することができました。初めての栽培だったため、作業過程での戸惑いも多く、農作業の環境などで通所者にとっては難しい面もあり、それぞれの特性に応じた作業分担を見極めていく必要があります。また収穫適期や収穫後の熟成方法・保管方法も初めてだったので、今後改良を続けます。

熟成させたサツマイモを、市内石材店の飛騨の溶岩石を使って焼き芋にして販売しました。地元企業と連携することで、差別化を図りました。試験販売も行い、お客様からは美味しいとの声をいただきました。焼く時間など加工についても改良の余地があり、商品のPRや情報発信も今後さらに強化したいと考えています。引続き、障がい者等の生きがいがづくりの場の創出と有機農業の推進の両輪を一步ずつ進めたいと考えています。